



測定値が維持管理計画値を超過した(下回った)理由(\*)

- ① 世田谷清掃工場 2号炉5月5日(日) 15:00  
排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で114ppmを記録した。  
破碎ごみ解砕機へのごみ巻き付きによる過負荷で、解砕機故障警報が発報した。正逆転により故障は復旧したが、その際巻き付きごみが落下し過剰燃焼となり、煙突入口CO濃度換算値PV上限が発報。その後、ごみ供給を安定させたが逸脱した。  
ごみ供給速度の調整、燃焼熔融炉の空気補正の調整、バーナによるごみ焼却量調整を行い、ごみ供給および燃焼状態を安定させ、復旧した。
- ② 品川清掃工場 1号炉5月9日(木) 15:00  
排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で195ppmを記録した。  
ごみホッパブリッジによるごみ層厚低下により、燃焼状態が悪化したため、煙突排ガス一酸化炭素濃度が急激に上昇した。  
調査したところ、ごみ層厚が薄いことに気づき、ブリッジ解除装置の運転などの対応により、煙突排ガスCO濃度上限警報が解除された。
- ③ 港清掃工場 2号炉5月28日(火) 15:00  
燃焼室ガス温度が、一時間平均値で764℃を記録した。  
ごみホッパにおけるブリッジ発生によって給じんが停止し、炉内温度が低下した。  
ホッパブリッジ解除装置を使用したため、ブリッジが解除できなかったため焼却炉を立ち下げた。立下中にホッパ内散水を実施したところ、ブリッジが解除されたため、再立上げを行い、同日23時に立上げを完了した。

令和元年度 維持管理状況(5月1日～31日) <工場設置計器の測定結果>より